

[各部局教育最前線]

総合農学の高等教育を目指して

—三重高等農林学校開学 100 周年からの挑戦—

松村 直人（三重大学大学院生物資源学研究科・生物資源学部）

三重大学生物資源学部・生物資源学研究科は、1921 年（大正 10 年）、大学の前身となった三重高等農林学校として設置されて以来、三重大学農学部、三重県立大学水産学部と移管後の三重大学水産学部、そしてそれらの統合としての生物資源学部を経て、2021 年（令和 3 年）12 月 10 日をもって 100 周年を迎えました。日本学術会議では、農学の基本構成として 7 つの領域（生産農学、畜産・獣医、農業経済、森林・林産、農業工学、農芸化学、水産学）を定めていますが、本学は、これら農学系の大部分をカバーする数少ない大学です。農学系のカバーする領域は非常に幅広く、国内では農学部と水産学部が独立に、キャンパスも離れている場合もあります。また、海外では複数の学部として設置されたり、農科大学、林科大学、水産大学などの単科専門大学となっている事例も多いようです。そのため、本学のように、農学系分野を 1 学部として統合し、総合的に学ぶことができるというのは非常にユニークな存在です。

さらに、本学の特徴は、豊富な附属施設です。農場、演習林、水産実験所、練習船勢水丸に加え、日本でも唯一の鯨類研究センターを持っています。農学の特徴は、生物がもつ機能と役割について学び、生物資源の開発と利用を進め、自然と調和した循環型社会の構築を目指し、生物資源の持続的生産と地球環境問題の解決を目指すことにあると思います。さらに、生き物が対象ですので、実際に、見て、触れて、測って、あるいは、実験して、科学的に考える必要があります。そのような総合農学の教育研究の現場として、豊富な附属施設のフィールドや三重県、紀伊半島スケールでの実験フィールドにも恵まれています。

令和 6 年 4 月設置を目指して、現在学科改組を準備中です。従来の 4 学科を 1 学科に統合し、農林環境科学コース、海洋生物資源学コース、生命化学コースに加え、生物資源総合科学コースを設置予定です。総合科学コースでは、自分の将来の可能性を広げるため、多様な農学系分野の内容にふれてから自分にあった専門分野を選ぶことができます。さらに、各コースの中に、農学専修、森林科学専修、農業工学専修、海洋生物資源学専修、生命機能化学専修、海洋生命化学専修の 6 専修を置いて、専門性を高めるカリキュラムになっています。

新課程教育の特徴は、従来のカリキュラムに見られた学問領域の多様性と豊富な附属施設を利用した教育に加え、データサイエンス教育の重視です。SDGs や Society5.0、気候変動や異常気象への対応、脱炭素社会やポストコロナのライフスタイルの変容など、生物資源に関わる課題はますます複雑化しています。こうした課題の解決に向けて、総合農学の各領域の専門性とそれらを繋ぐ俯瞰的視点、デジタルフードシステムに関する総合的な知識、データ駆動型の農林水産業やデータサイエンスの素養に対応可能なカリキュラムを構成し、次の 100 年を担う人材を育成していきたいと思っています。